

## 『哲學年報』 文献目録(昭和・平成) : 昭和15(1940)年 第1輯 ~ 平成31(2019)年 第78輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
1	讀易	楠本 正繼	1	1940	S15
2	愛、運命、ロゴス：ヘーゲルの「フランクフルト断片」	四宮 兼之	1	1940	S15
3	バトスの倫理よりエートスの倫理へ	新開 長英	1	1940	S15
4	歴史の原型	田中 晃	1	1940	S15
5	「圖像鈔」の編纂過程について	太田 鉄雄	1	1940	S15
6	カッシラア「認識の現象學」	矢田部 達郎	1	1940	S15
7	行爲と自由意志	大島 直治	1	1940	S15
8	プラトン哲學の性格：行爲主義的か存在論的か	田中 晃	2	1941	S16
9	カント實踐哲學に於ける幸福の問題	永野 羊之輔	2	1941	S16
10	梵文古寫經雜報：朝鮮發見ターラ葉篋十萬頌般若と福岡縣求菩提山國寶銅版法華經の梵文陀羅尼について	干潟 龍祥	2	1941	S16
11	カッシラア「認識の現象學」(承前)	矢田部 達郎	2	1941	S16
12	正法眼藏隨問記者	秋重 義治	2	1941	S16
13	國土	藏内 數太	2	1941	S16
14	抽象作用に関する心理學的知見	矢田部 達郎	3	1942	S17
15	人倫的秩序	新開 長英	3	1942	S17
16	カントに於ける道德律の意義	福家 眞木太	3	1942	S17
17	自然法の歴史的原義について	中島 慎一	4	1944	S19
18	朱子學の精神	楠本 正繼	4	1944	S19
19	プラトン徳論の主流	田中 晃	4	1944	S19
20	抽象作用に関する心理學的知見：哲學年報第三輯補遺	矢田部 達郎	4	1944	S19
21	大寶二年戸籍帳に就いて：社會學的考察	近澤 敬一	4	1944	S19
22	藝術様式の地方性	矢崎 美盛	4	1944	S19
23	ルネ・デカルトの懷疑：『省察録』におけるデカルトの自覺(西洋哲學史研究第一篇)その一	瀧澤 克己	5	1946	S21
24	ソクラテス研究序説(上)：對話と問答	永野 羊之輔	5	1946	S21
25	客觀精神に於ける主體性の辯證的展開：ヘーゲル法哲學の解釋	習田 達夫	5	1946	S21
26	寶慶記者：其一	秋重 義治	5	1946	S21
27	"COGITO ERGO SUM"：『省察録』におけるデカルトの自覺(西洋哲學史研究第一篇)その二	瀧澤 克己	6/7	1948	S23
28	社會本質への二つの試論：テオドール・リットとマクス・シェラー	上田 一雄	6/7	1948	S23
29	ソクラテス研究序説(下)：對話と問答	永野 羊之輔	6/7	1948	S23
30	寶慶記者 其二	秋重 義治	6/7	1948	S23
31	マナと靈質	阿部 重夫	6/7	1948	S23
32	四宮兼之先生のこと	猪城 博之	6/7	1948	S23
33	佐野先生の追憶	阿部 重夫	6/7	1948	S23
34	莊子、天籟考	楠本 正繼	8	1950	S25
35	デカルト『省察録』研究(上)	瀧澤 克己	8	1950	S25
36	ヘーゲル哲學に於ける民族精神	習田 達夫	8	1950	S25
37	「方法論(traktat von der Methode)」としての純粹理性批判	今村 茂	8	1950	S25
38	現代哲學の課題：宗教と科學と哲學	瀧澤 克己	9	1950	S25
39	ハイデッガーに於ける實存と無の性格	佐々木 一義	9	1950	S25

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
40	玉虫厨子の所謂「多寶塔図」について	谷口 鉄雄	9	1950	S25
41	イデオロギー概念の展開	上田 一雄	9	1950	S25
42	カール・バルトに於ける「隣人愛」の問題: ラインホルド・ニーバーとの論争をめぐって	小樋井 滋	9	1950	S25
43	馬頭観音考	干潟 竜祥	10	1950	S25
44	歴史的時間について : 九州大学文学部独立記念講演	長沢 信寿	10	1950	S25
45	上代彫刻の光背に関する二三の問題	谷口 鉄雄	10	1950	S25
46	ヘーゲルの体系と精神の論理 : 「思弁哲学に於ける精神の形而上学」への序説	山本 清幸	10	1950	S25
47	キェルケゴールの実存哲学に於ける自己の問題	佐々木 一義	10	1950	S25
48	比較作用における単一刺戟法に関する考察	船津 孝行	10	1950	S25
49	デカルト『省察録』研究(中)	滝沢 克己	11	1951	S26
50	漁村の労働関係とその社会的基礎	内藤 莞爾	11	1951	S26
51	心・自由・神 : カント批判哲学の一解釈	習田 達夫	11	1951	S26
52	ヘーゲルの體系と精神の論理(承前)	山本 清幸	11	1951	S26
53	三性説餘論 : 眞諦の「転識論」と安慧の「三十論頌釈論」	大野 義山	11	1951	S26
54	デカルトにおける「觀念のレアリタス・オブエクティワ」について	猪城 博之	11	1951	S26
55	超越的感性論における現象概念について	今村 茂	11	1951	S26
56	認識構造の心理學的研究	秋重 義治	12	1952	S27
57	マナと人格的存在	阿部 重夫	12	1952	S27
58	ミルの『自由論』の構想と根本精神	岩崎 二雄	12	1952	S27
59	ブレンターノの時間空間論に於ける『プレローゼ』と『テレイオーゼ』の概念に就いて	野村 重喜	12	1952	S27
60	筑紫観世音寺の梵鐘	谷口 鉄雄、波多江 一俊、岡崎 讓治	12	1952	S27
61	ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』について	瀧澤 克己	12	1952	S27
62	哲学に於ける確實性の問題	フィリップ デロリエ	13	1952	S27
63	シャルル・ド・ブロスと實證的精神	古野 清人	13	1952	S27
64	カントにおける物自體の思惟について	今村 茂	13	1952	S27
65	技と心	岡田 武彦	13	1952	S27
66	二つのヒューマンイズムと今日の日本 : 一九五一年秋、日本=九州哲學會における公開講演	瀧澤 克己	13	1952	S27
67	朱晦庵の二遺業	楠本 正継	14	1953	S28
68	卜辭の世界から人間的敬の世界へ	山室 三良	14	1953	S28
69	劉念台の誠意説	岡田 武彦	14	1953	S28
70	佛教論理學派と刹那滅説の論證	渡邊 照宏	14	1953	S28
71	陳那に於ける言語と存在の問題	伊原 照蓮	14	1953	S28
72	ブレンターノに於ける神の證明の問題	田邊 重三	14	1953	S28
73	内的人間と外的人間: 聖アウグスティヌスの人間論	長沢 信寿	14	1953	S28
74	現代の海圖としての哲学: ラスキの『信仰・理性・文明』の批評をとおして	滝澤 克己	14	1953	S28
75	幾何学的様式: リーグル研究 一ノ一	谷口 鉄雄	14	1953	S28
76	創造と時間	山本 清幸	14	1953	S28
77	ハイデッガーの實存論哲学と哲學的人間學	佐々木 一義	14	1953	S28
78	惡の根源に就て(一) : カント實踐理性批判の研究	習田 達夫	14	1953	S28

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
79	ジョン・デューイの宗教観	西原 猛	14	1953	S28
80	アメリカの公教育と宗教	平塚 益徳	14	1953	S28
81	シャマンの社会的性格	古野 清人	14	1953	S28
82	呪術と宗教に関する管見	阿部 重夫	14	1953	S28
83	社会成層の研究について:序説	内藤 莞爾	14	1953	S28
84	心理学に於ける方法論の変遷	石井 克巳	14	1953	S28
85	知覚と人格(一)	藤沢 祐	14	1953	S28
86	禪の心理:第三報告	安宅 孝治	14	1953	S28
87	普勸坐禅儀考	秋重 義治	14	1953	S28
88	安慧唯識に於ける分別と所分別	大野 義山	14	1953	S28
89	聖トマス幸福論序説	東光 寛英	14	1953	S28
90	スピノザの感情論	柴田 増実	14	1953	S28
91	カントにおけるens rationis ratiocinataeとしての物自體とens rationis ratiocinatisとしての物自體について	今村 茂	14	1953	S28
92	ブレントラーノの積極的對立の公理 (der Satz der positiven Opposition) に就て	野村 重喜	14	1953	S28
93	米國における夫婦生活成功の豫測研究	執行 嵐	14	1953	S28
94	筑紫觀世音寺の大黒天	岡崎 讓治	14	1953	S28
95	發展と縁起	長澤 信壽	15	1954	S29
96	ハイデッガーの實存概念についての一管見	佐々木 一義	15	1954	S29
97	絨緞様式・紋章様式、植物文様の始源:リーグル研究 一ノ二	谷口 鉄雄	15	1954	S29
98	北陸念佛講調査記	内藤 莞爾	15	1954	S29
99	「社会主義社会における自由」の問題	瀧澤 克己	15	1954	S29
100	良知現成論の成立:王龍溪の學的精神	岡田 武彦	15	1954	S29
101	スピノザにおける人間の本質としてのConatusの概念について	林 賢市	15	1954	S29
102	ヘーゲル初期における「生命」の概念:ヘーゲル初期における辨證法の成立	本田 玄伯	15	1954	S29
103	色彩恒常現象に関する心理學的研究 第一報告:特に色彩對比との關係を中心として	新村 豊	15	1954	S29
104	レオナルド・ダ・ヴィンチの左手に就て	裾分 一弘	15	1954	S29
105	ペラギウスについて	長澤 信壽	16	1954	S29
106	ハイデッカーに於ける現存在の實存論的構造の變化(一)	佐々木 一義	16	1954	S29
107	良知歸寂派の學的精神	岡田 武彦	16	1954	S29
108	存在命題に就て	習田 達夫	16	1954	S29
109	キケロの「友情論」の一考察:饗宴(Convivium)	東光 寛英	16	1954	S29
110	近郊農民の一面:一つのメモ	内藤 莞爾	16	1954	S29
111	支配の正當性と合法性:マックス・ウェーバーの支配社會學における一問題	余宮 道德	16	1954	S29
112	諸恒常現象間の相關に関する研究	石井 克巳	16	1954	S29
113	形の恒常現象に関する研究	武藤 雪下	16	1954	S29
114	二程子論:明道の部	楠本 正継	17	1955	S30
115	ペラギウスについて	長澤 信壽	17	1955	S30
116	アメリカの保守的小教派:アーミッシュとハッターライト	古野 清人	17	1955	S30
117	サーストーン「知覚の因子分析的研究」	石井 克巳	17	1955	S30

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
118	隋代彫刻銘文集録(上)	谷口 鉄雄、副島 三喜男	17	1955	S30
119	聖トーマスに於ける「もの」の認識	久保 守	17	1955	S30
120	神、人間および國家：いわゆる「天皇制」批判の方法に関する一省察	瀧澤 克己	18	1955	S30
121	有時	山本 清幸	18	1955	S30
122	隋代彫刻銘文集録(下)	谷口 鉄雄、副島 三喜男	18	1955	S30
123	炭坑従業員の宗教的態度	古野 清人、阿部 重夫、船津 孝行	18	1955	S30
124	存在命題と個體的表現	習田 達夫	18	1955	S30
125	知覚行動の比較発達心理学的研究：大いさの恒常現象を中心として	金子 信光	18	1955	S30
126	湛甘泉の學的精神	岡田 武彦	18	1955	S30
127	マハーバースツ地獄品の研究	高原 信一	18	1955	S30
128	鬼谷子について	佐藤 仁	18	1955	S30
129	永平廣録考	秋重 義治	19	1956	S31
130	續二程子論：伊川の部	楠本 正繼	19	1956	S31
131	ハイデッガーに於ける現存在の實存論的構造の変化(下)：現存性と眞理との關係	佐々木 一義	19	1956	S31
132	フッサールに於ける意識の地平の問題	根井 康雄	19	1956	S31
133	孔子論	山室 三良	20	1957	S32
134	レオナルドの手記に現われた人名固有名詞索引	裾分 一弘	20	1957	S32
135	比較作用の研究(第7報告)：順応水準説に関する考察	船津 孝行	20	1957	S32
136	諸恒常現象間の相関に関する研究 第二報告	石井 克己	20	1957	S32
137	知覚行動の比較発達心理学的研究 第二報告：大きさの恒常現象を中心として	金子 信光	20	1957	S32
138	シェリングの中期思想	山本 清幸	21	1958	S33
139	孟子をめぐる二、三の問題：讀孟荀記	山室 三良	21	1958	S33
140	英国における社会階層研究	山本 陽三	21	1958	S33
141	現象的速度知覚の恒常性に関する研究	牟田 泰祥	21	1958	S33
142	後期ロマンチズムとシェリング：(シェリングの中期思想 その二)	山本 清幸	22	1960	S35
143	日本における知覚恒常性の研究	秋重 義治	22	1960	S35
144	孔子と老荘：孔子学派と老荘 第一部	山室 三良	22	1960	S35
145	経営階層の社会学的分析 I：農村社会成層の研究	内藤 莞爾	22	1960	S35
146	スポータと現量	伊原 照蓮	22	1960	S35
147	キリスト教、神道に於ける、事物把握(知覚意味づけの様式)の特徴に関する研究	野村 暢清	22	1960	S35
148	「眞」について：現実と夢	森田 良紀	22	1960	S35
149	「善」について	森田 良紀	22	1960	S35
150	智慧の投影	今道 友信	22	1960	S35
151	歴代名書記索引	谷口 鉄雄	22	1960	S35
152	知るもの、生きるもの、動くもの：プラトン『法律』第十巻の神学思想の自然学的意義とその背景、古代自然観におけるプシューケー論について	藤沢 令夫	22	1960	S35
153	人類観念の一形態	鈴木 広	22	1960	S35
154	諸恒常現象間の相関に関する研究(第3報告)：知覚恒常性と Luneburg の視空間理論	石井 克己	22	1960	S35
155	チベット文一万頌般若経について	高原 信一	22	1960	S35
156	BRUNSWIKの確率的機能主義に関する考察：比較作用の研究 第8報告	船津 孝行	22	1960	S35

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
157	形而上学の基礎としての心理学：ブレントノの「もの」概念をめぐる	根井 康雄	22	1960	S35
158	陰符経を読む	佐藤 仁	22	1960	S35
159	ヘーゲルの宗教論と彼岸の問題	城戸 寛	22	1960	S35
160	「経済法則」の性格にかんする一哲学徒の省察：「スターリン論文」に対する宇野弘蔵教授の批判に即して	滝澤 克己	23	1961	S36
161	BRUNSWIKの確率的機能主義に関する考察：比較作用の研究 第8報告(承前)	船津 孝行	23	1961	S36
162	諸恒常現象間の相関に関する研究(第4報告)：知覚恒常性とLunenburgの視空間理論	石井 克己	23	1961	S36
163	ジャイナ教の禪定について：裸行派の禪定を中心として	松濤 誠廉	23	1961	S36
164	学道用心集考	秋重 義治	23	1961	S36
165	人間における悪の自由と叡智性：シェリングの中期思想 その三	山本 清幸	23	1961	S36
166	張彦遠の品等論にみえる「自然」について	谷口 鉄雄	23	1961	S36
167	経営階級層の社会学的分析Ⅱ：農村社会成層の研究	内藤 莞爾	23	1961	S36
168	周初に於る人文主義の黎明	山室 三良	23	1961	S36
169	「スポータ・シッディ」と「ブラフマ・シッディ」	伊原 正蓮	23	1961	S36
170	宗教現象のtheory構成への一段階：これは一二のtheory構成への地ならしの操作である。	野村 暢清	23	1961	S36
171	同一性の自己塑性について(一)	今道 友信	23	1961	S36
172	現代における哲学の課題：プラトニズムより見た現代哲学の一形態	藤沢 令夫	23	1961	S36
173	ヴィヤール・ド・オンヌクールの画帳：西洋中世の画論から	前川 誠郎	23	1961	S36
174	反規範としての社会にかんする覚え書(一)	鈴木 広	23	1961	S36
175	アルベルティの遠近法について	裾分 一弘	23	1961	S36
176	「生まれたもの」と「つくられたもの」：プラトンの宇宙論的神学とキリスト教的自然神学における世界の理解の問題	清水 正照	23	1961	S36
177	孟子に於る神秘的一側面とその来源	山室 三良	24	1962	S37
178	棄権の実態：政治社会学への接近	内藤 莞爾	24	1962	S37
179	同一性の自己塑性について(二)	今道 友信	24	1962	S37
180	馬渡集団カトリックの研究	野村 暢清	24	1962	S37
181	零細企業集団型都市の総社会過程	鈴木 広、土居 平、木下 謙治、林 雅孝、千石 好郎	24	1962	S37
182	諸恒常現象間の相関に関する研究(第5報告)：知覚恒常性とLunenburgの視空間理論(3)	石井 克己	24	1962	S37
183	「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(一)	戸崎 宏正	24	1962	S37
184	諸恒常現象間の相関に関する研究(第6報)：知覚恒常性とLunenburgの視空間理論(4)	石井 克己	25	1964	S39
185	同一性の自己伝達としての芸術と死について	今道 友信	25	1964	S39
186	大きさの恒常現象に関する実験的研究：見えの大きさと見えの距離との尺度化の問題を中心にして	黒田 輝彦	25	1964	S39
187	「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(2)	戸崎 宏正	25	1964	S39
188	明儒張陽和論：良知現成論の一屈折	荒木 見悟	25	1964	S39
189	プラトンの方法に関する一考察：「何であるか(Ti'εστελν;)と「いかなる性質のものであるか」(Οπισσινεστελν;)という二つの問いを中心に	武宮 諦	25	1964	S39
190	姚最の伝記よりみたる『続画品』の成立の問題	平田 寛	25	1964	S39
191	シェリングの時間論：「世代論」成立の根拠について(シェリングの中期思想 その四)	山本 清幸	26	1967	S42
192	Eine Frage an die Theologie K. Barths und das Problem des historischen Jesus	Takizawa Katsumi	26	1967	S42
193	日本における知覚恒常性の研究Ⅱ	秋重 義治	26	1967	S42
194	思想発展の路線上から見た「老子」成立の年代	山室 三良	26	1967	S42

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
195	関係的定立としての可能性と可能性への与件 : カント様相論についての覚書	鬼頭 英一	26	1967	S42
196	アルテ・ピナコテークの「歴史画」について	前川 誠郎	26	1967	S42
197	観念と言葉 : ロックの『人間知性論』第三巻の検討	黒田 亘	26	1967	S42
198	周海門の思想	荒木 見悟	26	1967	S42
199	Samdhāyaについて : 法華経方便品の一問題	戸田 宏文	26	1967	S42
200	華南宗族の婚域について	内藤 莞爾	26	1967	S42
201	集団カトリック研究の一資料	野村 暢清	26	1967	S42
202	スポーツ存在の論証:『スポーツシッディ』和訳(2)	伊原 照蓮	26	1967	S42
203	Mahāvastuに見られるSuttanipātaの対応部分	高原 信一	26	1967	S42
204	「過去」的原理としての必然と自由(シェリングの中期思想 その五)	山本 清幸	27	1968	S43
205	Zen-Buddhismus und Christentum im gegenwärtigen Japan	Takizawa Katsumi	27	1968	S43
206	長崎県外海町黒崎地域のキリシタン・カトリックの研究	野村 暢清	27	1968	S43
207	相続形態の試論的分析:いわゆる末子相続を基軸として	内藤 莞爾	27	1968	S43
208	確率機能主義をめぐる論争	船津 孝行	27	1968	S43
209	可能性の場	鬼頭 英一	27	1968	S43
210	法華経方便品「五仏章」の梵文について : 比較研究試放	戸田 宏文	27	1968	S43
211	アルブレヒト・デューラー遺文集(二)	Dürer Albrecht, 前川 誠郎	27	1968	S43
212	土着型社会の流動化をめぐる政治的状況:都市近郊地域における生活構造の変質過程	鈴木 広	27	1968	S43
213	ヒンズー社会における「儀礼身分」について:「Pollution コンセプト」をめぐる若干の理論的整理	岩田 啓靖	27	1968	S43
214	心理学における生理的測定の問題:注意時の脳電図α波について	山岡 哲雄	27	1968	S43
215	アノミーの研究 : 概念図式と因果律をめぐる一考察	牧 正美	27	1968	S43
216	湛甘泉と王陽明:なぜ甘泉学は陽明学ほど発展しなかったか	荒木 見悟	27	1968	S43
217	注意の生理心理学的研究	山岡 哲雄	28	1969	S44
218	四書湖南講について	荒木 見悟	28	1969	S44
219	Mahavastuにみられる如来の十力と十八不共法	高原 信一	28	1969	S44
220	不安と恐慌 : 覚え書	滝沢 克己	28	1969	S44
221	心的作業負荷の一指標としての瞳孔反応:予備的な考察	船津 孝行	28	1969	S44
222	羊欣『古来能書人名』: 附羊欣伝	谷口 鉄雄	28	1969	S44
223	いわゆる末子相続の家族周期的分析	内藤 莞爾	28	1969	S44
224	An Index to the Brahmasūtra-Sāmkara-Bhāṣya I, 1.	Ihara Shoren	28	1969	S44
225	シェリングの「世界」(Welt)概念(一)(シェリングの中期思想 その六)	山本 清幸	28	1969	S44
226	意味と検証 : ヴァイトゲンシュタイン研究(I)	黒田 亘	28	1969	S44
227	社会的移動論序説	鈴木 広	28	1969	S44
228	長崎県黒崎におけるキリシタンのオラショ	野村 暢清	28	1969	S44
229	アルブレヒト・デューラー遺文集(三)	前川 誠郎	28	1969	S44
230	「時間」	森田 良紀	28	1969	S44
231	スピノザにおける人間の徳性と自然権	山本 清幸	29	1970	S45
232	Jesus und das asiatische Denken : anlässlich Matth. 4 1-11	Takizawa Katsumi	29	1970	S45
233	The Experimental Study of EEG Alpha and Kappa Rhythms during Mental Arithmetic	Yamamo Tetsuo	29	1970	S45

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
234	齊物論釈訓註(その一)	荒木 見悟	29	1970	S45
235	知覚恒常性に関する考察	船津 孝行	29	1970	S45
236	末子相続研究序説	内藤 莞爾	29	1970	S45
237	キリシタン・カトリック村落,黒崎の土地所有及び戸籍について	野村 暢清	29	1970	S45
238	齊物論釈訓註(その二)	荒木 見悟	30	1971	S46
239	「家」と末子相続に関する覚書	内藤 莞爾	30	1971	S46
240	他人のころろ : リードとヴィトゲンシュタイン	黒田 亘	30	1971	S46
241	「判断力批判」における「趣味判断」の問題 : カントにおける「美」の根本的性格	上田 富美子	30	1971	S46
242	A psychophysiological study on eye movement: Some observations of eye movements during waking state with closed eyes by electrooculograph.	Nakamizo Sachio	30	1971	S46
243	サルトルの『嘔吐』について	末次 弘	30	1971	S46
244	齊物論釈訓註(その三)	荒木 見悟	31	1972	S47
245	キリシタン・カトリック村落のreligious cultural mentalityの研究	野村 暢清	31	1972	S47
246	Naiyayikaのkrti説 : 人称語尾の理解をめぐる	長尾 睦司	31	1972	S47
247	カトリック漁民の家族分封	内藤 莞爾、土居 平	31	1972	S47
248	色彩認知における概念的要因について	西山 佐代子	31	1972	S47
249	「判断力批判」における「崇高」の問題	上田 富美子	31	1972	S47
250	キリシタン村落根獅子(ネシコ)の宗教と社会構造 : 「納戸神」信仰の社会学的考察	牧 正美	31	1972	S47
251	社会的移動とアノミー : その基礎視角をめぐる	三浦 典子	31	1972	S47
252	銭緒山の「伝習統録」編纂について	吉田 公平	31	1972	S47
253	スポータ存在の論証 : 「スポータシッディ」和訳(3)	伊原 照蓮	32	1973	S48
254	洪秀全初期の思想	佐藤 震二	32	1973	S48
255	アルザス地方の末子相続制[1864年初版]	内藤 莞爾、Edouard Bonvalot	32	1973	S48
256	玄證本薬師十二神将図小考	錦織 亮介	32	1973	S48
257	バルトとバンネンベルクの歴史理解	寺園 喜基	32	1973	S48
258	空間的方向軸の認知の発達過程について	西山 佐代子	32	1973	S48
259	MantraとNiyama	針貝 邦生	32	1973	S48
260	宗教現象と儀礼的逆転(ritual reversal)	安元 正也	32	1973	S48
261	スポータ存在の論証 : 「スポータシッディ」和訳(4)	伊原 照蓮	33	1974	S49
262	羅念菴の思想	荒木 見悟	33	1974	S49
263	バルトにおける神認識	寺園 喜基	33	1974	S49
264	上五島キリシタンの家族分封	内藤 莞爾	33	1974	S49
265	タントラ・ヴァールティカ聖伝章和訳研究(1)	針貝 邦生	33	1974	S49
266	儀礼的転位について	安元 正也	33	1974	S49
267	経験と習慣 : デューイの「経験」概念の一考察	稲垣 良典	33	1974	S49
268	概念について : 知識論的観点から・カントの場合	岩隈 敏	33	1974	S49
269	御筆本 仁王経五方諸尊図考	錦織 亮介	33	1974	S49
270	カント『純粹理性批判』における第三の二律背反について	藤井 誠	33	1974	S49
271	広福護国禅寺蔵善財童子歴参図	平田 寛	33	1974	S49

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
272	習慣と意志：トマスの意志概念の一考察	稲垣 良典	34	1975	S50
273	歴史哲学序説：現代の歴史観的状况あるいは従属,並列,帰属	山崎 庸佑	34	1975	S50
274	駁呂留良四書講義をめぐる若干の問題	荒木 見悟	34	1975	S50
275	「法言」について	町田 三郎	34	1975	S50
276	司馬遷の封禅論：「史記」封禅書の歴史記述をめぐる	竹内 弘行	34	1975	S50
277	明恵の周辺：恵日房成忍と俊賀の場合	平田 寛	34	1975	S50
278	近世後期俗芸術における創作意識の推移：雅と俗と	狩野 博幸	34	1975	S50
279	天草漁家の家族周期	内藤 莞爾	34	1975	S50
280	GuilfordのSI理論に関する考察	松田 君彦	34	1975	S50
281	光刺激に対する瞳孔の反応について	松永 勝也	34	1975	S50
282	心理学の課題	船津 孝行	34	1975	S50
283	「儀礼的転位」概念について	安元 正也	34	1975	S50
284	宗教的統合の性格：キリシタン村落 生月と黒崎	野村 暢清	34	1975	S50
285	社会分析とシステム理論	井上 寛	34	1975	S50
286	マハーバーシュヤ第一日課(Paspaśā-Āhnikā)とタントラヴァールツィカ	針貝 邦生	34	1975	S50
287	バルトリハリによるPānini 3.2.123.の解釈	伊原 照蓮	34	1975	S50
288	瞳孔条件反応に関する研究	朝長 昌三	35	1976	S51
289	佐賀県立博物館保管 洛中洛外凶屏風について	狩野 博幸	35	1976	S51
290	ユーモアの心理学的理論と研究課題	高下 保幸	35	1976	S51
291	五島の隠居制家族：隠居と再隠居	内藤 莞爾	35	1976	S51
292	島田藍泉研究(その一)	荒木 見悟	35	1976	S51
293	安全運転管理への新しいアプローチ：予備的な考察	船津 孝行	36	1977	S52
294	キリシタン故地の家族慣行	内藤 莞爾	36	1977	S52
295	色彩象徴の難易と変動について	高下 保幸	36	1977	S52
296	現代フランスの価値論(一)：価値と存在	増永 洋三	36	1977	S52
297	瞳孔条件反応に関する研究	朝長 昌三	36	1977	S52
298	ヴィシュヌ・プラーナ研究：第四章第一節和訳	奥田 真隆	36	1977	S52
299	「現存在の分析論」論：ハイデガー『存在と時間』探求序説	甲斐 博見	36	1977	S52
300	ドイツ社会学成立史論序説：学会設立とマックス・ヴェーバー	米沢 和彦	36	1977	S52
301	石渠閣論議の思想史的位置づけ：穀梁学および礼議奏残片を通じて	辺土名 朝邦	36	1977	S52
302	梁代に於ける鐘繇評価	目加田 明子	36	1977	S52
303	島田藍泉研究(その2)島田藍泉小伝	荒木 見悟	37	1978	S53
304	出雲地域の憑物現象と北方シヤマニズム	野村 暢清	37	1978	S53
305	若松島の家族分封：キリスト教系島民の場合	内藤 莞爾、坂本 喜久雄	37	1978	S53
306	「プラマーナ・ブールティカ」現量章の和訳研究(15)	戸崎 宏正	37	1978	S53
307	Visnupurana和訳研究：VP3.8-9和訳及びVP39.とMBh 12の住期法比較	奥田 真隆	37	1978	S53
308	瞳孔の近見反応に関する研究	朝長 昌三	37	1978	S53
309	現代フランスの価値論(二)価値と可能性	増永 洋三	37	1978	S53
310	太玄経について	町田 三郎	37	1978	S53

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
311	マックス・ヴェーバーにおける農村分析の基礎視角	米沢 和彦	37	1978	S53
312	コミユナル・セクト	坂井 信生	38	1979	S54
313	奈留島キリシタンの家族分封	内藤 莞爾、野口 英子	38	1979	S54
314	「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(16)	戸崎 宏正	38	1979	S54
315	対光瞳孔反応に及ぼすアルコール飲用の影響	松永 勝也、広瀬 春次、朝長 昌三、平石 徳己	38	1979	S54
316	トマス・アクィナスにおける習慣と自由	稲垣 良典	38	1979	S54
317	炭住コミュニティにおける生活構造	鈴木 広、三浦 典子、古賀 倫嗣	38	1979	S54
318	「文景」から「漢武」へ：儒教国教化への道程	町田 三郎	38	1979	S54
319	洞窟の座標：プラトン「国家」における善と正義と快	小林 信行	38	1979	S54
320	馮少墟：明末一士人の生涯と思想	柴田 篤	38	1979	S54
321	unum quod convertitur cum enteについて	稲垣 良典	39	1980	S55
322	「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(17)	戸崎 宏正	39	1980	S55
323	M・ブロンデル研究(一)：ライブニッツの実体的紐帯の問題をめぐって	増永 洋三	39	1980	S55
324	視覚的時間順序と眼球運動	渋谷 幸一	39	1980	S55
325	歴史意識と歴史解釈の歴史性：その一	山崎 庸佑	39	1980	S55
326	カント倫理学における「理性の事実」	細川 亮一	39	1980	S55
327	主語・述語からアーギュメント・関数へ：フレーゲ論理学の「意味論」的基礎づけ	田畑 博敏	39	1980	S55
328	デカルト「情念論」への試み：情念の統御をめぐって	村上 伸子	39	1980	S55
329	工業化地域の生活構造	鈴木 広、三浦 典子	39	1980	S55
330	秦漢の思想統制について	町田 三郎	39	1980	S55
331	呉草廬と鄭師山：元代陸学の一展開	石田 和夫	39	1980	S55
332	スポータ存在の論証：「スポータンツディ」和訳(5)	伊原 照蓮	40	1981	S56
333	楊龜山小論	荒木 見悟	40	1981	S56
334	安全運転の規準測度としての人・車系の挙動とその管理システムの研究	船津 孝行	40	1981	S56
335	投票行動と社会変動	鈴木 広	40	1981	S56
336	実体と主体	細川 亮一	40	1981	S56
337	Tlajomulco Santacruzにおける不安と社会性と経済的側面に関する研究	野村 暢清	40	1981	S56
338	敦煌第二五七窟本生図と第四二八窟本生図：初期本生図に見る外来表現の受容と展開・画面構成を中心に	尾崎 直人	40	1981	S56
339	「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(18)	戸崎 宏正	40	1981	S56
340	デカルトにおける観念について：『第三省察』『第二答弁』における観念の定義をめぐって	西本 恵司	40	1981	S56
341	エスニック・セクト：メキシコのメノナイトを中心に	坂井 信生	40	1981	S56
342	音方向弁別時の瞳孔運動	松永 勝也、熊谷 陽子、福田 恭介、船津 孝行	40	1981	S56
343	日蓮における宗教性と社会的価値体系の緊張：慈悲という概念をめぐり特に律宗との対比において	笠井 正弘	40	1981	S56
344	「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(19)	戸崎 宏正	41	1982	S57
345	認識におけるスペキエスの役割について	稲垣 良典	41	1982	S57
346	法華経とプラマーナ：対比の視点をうるために	伊原 照蓮	41	1982	S57
347	瑜伽行派(Yogacarah)の問題点：唯識思想成立以前の思想的立場をめぐって	阿 理生	41	1982	S57
348	秦の始皇帝について	町田 三郎	41	1982	S57
349	静的、動的凝視領域間の遷移としての眼球運動	渋谷 幸一	41	1982	S57

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
350	ブロンデル研究(二) : 生の批判と行為の論理	増永 洋三	41	1982	S57
351	頼派絵仏師の消長	平田 寛	41	1982	S57
352	超越論的对象と物自体 : その一	山崎 庸佑	41	1982	S57
353	存在論としての『存在と時間』	細川 亮一	41	1982	S57
354	Secundum Naturam Vivere : アウグスティヌス認識論の一考察	上野 正二	41	1982	S57
355	左伝の礼に関する一考察 : 「天経地義」説をめぐって	近藤 則之	41	1982	S57
356	デカルトにおける延長の認識について	西本 恵司	41	1982	S57
357	”あき地”の社会心理学	天野 英美	41	1982	S57
358	トマス・アキナスにおける徳の概念	稲垣 良典	42	1983	S58
359	「プラマーナ・ヴールティカ」現量章の和訳研究(20)	戸崎 宏正	42	1983	S58
360	天囚西村時彦覚書	町田 三郎	42	1983	S58
361	ゾロアスター教における聖なる火 : ナオサリの事例を中心として	中別府 温和	42	1983	S58
362	視覚システムにおけるフィルタリングと視覚研究におけるフィルタリング	渋谷 幸一	42	1983	S58
363	経験の分析と哲学	山崎 庸佑	42	1983	S58
364	形而上学としての「存在と時間」	細川 亮一	42	1983	S58
365	明末虎丘派の源流 : 笑巖徳宝と幻有正伝	野口 善敬	42	1983	S58
366	アウグスティヌス正義論の一考察	上野 正二	42	1983	S58
367	「在るもの」と「善」 : トマス transcendentia 論の一考察	稲垣 良典	43	1984	S59
368	「プラマーナ・ヴールティカ」現量章の和訳研究(21)	戸崎 宏正	43	1984	S59
369	一コミュナル・セクトにおける社会化について	坂井 信生	43	1984	S59
370	美的経験と理念(イデー)	山崎 庸佑	43	1984	S59
371	瑜伽行派の空性と実践 : [附録] Mahāyānasūtrāṅkāra 梵文字写本対照表	阿 理生	43	1984	S59
372	『省察』における「私の存在」	細川 亮一	43	1984	S59
373	ゾロアスター教における聖なる火と清浄儀礼 : ナオサリの事例を中心に	中別府 温和	43	1984	S59
374	デカルト初期の形而上学 : 神による永遠真理創造説について	西本 恵司	43	1984	S59
375	求心的な傾向 : 処置の効果を評価する際の錯誤	大坪 治彦	43	1984	S59
376	明末の仏教居士黃端伯を巡って	野口 善敬	43	1984	S59
377	地方都市における定住志向	谷 富夫	43	1984	S59
378	アウグスティヌス”De Trinitate”Ⅷ研究(1) : divertas affectuum	上野 正二	44	1985	S60
379	「へだたり」と「きずな」 : J. パリアールの知覚論をめぐって	増永 洋三	44	1985	S60
380	ゾロアスター教における死体悪魔(druxš yā nasuš)について	中別府 温和	44	1985	S60
381	宅間派研究史料(稿)	平田 寛	44	1985	S60
382	眼球-頭部協応運動 I	近藤 倫明	44	1985	S60
383	「神の似姿」の知と再形成をめぐって	谷 隆一郎	44	1985	S60
384	『精神の現象学』の最初の構想と構成問題	岡本 裕一郎	44	1985	S60
385	夏珪様式試論	井手 誠之輔	44	1985	S60
386	法称著「プラマーナ・ヴィニツュチャヤ」第1章現量(知覚)論の和訳(1)	戸崎 宏正	45	1986	S61
387	トマスにおける精神の哲学の研究(I) : 自己認識の問題	稲垣 良典	45	1986	S61
388	過剰都市化のメカニズム : 沖縄における模合の構造	鈴木 広	45	1986	S61

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
389	対他的-実践的経験と本源的共同存在	山崎 庸佑	45	1986	S61
390	宗教信仰と都市化 : 三井楽カトリックをめぐって	坂井 信生	45	1986	S61
391	M・ブロンデルにおける具体的論理の問題	増永 洋三	45	1986	S61
392	バタンチャリとスポーツ(Ⅰ)	清水 新一	45	1986	S61
393	巨勢派研究史料(稿)	平田 寛	45	1986	S61
394	ηδολη(快樂)からφρονησις(思慮)へ : 「ヒレボス」断章	新島 竜美	45	1986	S61
395	明末に於ける「主人公」論争 : 密雲円悟の臨濟禅の性格を巡って	野口 善敬	45	1986	S61
396	ヘーゲル『論理学』における「反省」の構造	岡本 裕一郎	45	1986	S61
397	「生天光手記」 : 沖縄の宗教的世界	安達 義弘	45	1986	S61
398	法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現量(知覚)論の和訳(2)	戸崎 宏正	46	1987	S62
399	「もの」と「記号」 : オッカムの個体主義についての一考察	稲垣 良典	46	1987	S62
400	ヴォランティア的行為における"K"パターンについて : 福祉社会学的例解の素描	鈴木 広	46	1987	S62
401	本源的共同存在と日常性批判	山崎 庸佑	46	1987	S62
402	認知スタイルと交通行動	船津 孝行、近藤 倫明	46	1987	S62
403	僧綱繪佛師研究史料(稿)	平田 寛	46	1987	S62
404	『法の哲学』の論理と立憲君主制	岡本 裕一郎	46	1987	S62
405	記号と因果性 : トマスの sacramentum 論より	片山 寛	46	1987	S62
406	バタンチャリとスポーツ(Ⅱ)	清水 新一	46	1987	S62
407	「生天光手記」 : 沖縄の宗教的世界(2)	安達 義弘	46	1987	S62
408	二者択一予測判断課題における期待正答率が確信度見積りに及ぼす効果	松永 勝也、原口 敏一	47	1988	S63
409	明治以降における道家思想研究史	町田 三郎	47	1988	S63
410	ダルマキールティの聖典観 : 『プラマーナ・ヴァールティカ』第1章および自註の和訳(1)	大前 太	47	1988	S63
411	デュルケムにおける発生論的アプローチの展開 : 機能概念に関する研究ノート	江頭 大蔵	47	1988	S63
412	平安時代画所画師関係史料(稿)	平田 寛	47	1988	S63
413	創造と原罪についての一試論 : アウグスティヌスの意志論(その2)	谷 隆一郎	47	1988	S63
414	原理理論としての特殊相対性理論	細川 亮一	47	1988	S63
415	トマス心身論の射程 : キリスト論における	片山 寛	47	1988	S63
416	前漢末・王莽期の治水論をめぐる思想的諸問題 : 災異説と經書の実践化を中心に	薄井 俊二	47	1988	S63
417	真理と合意 : 「真理の合意説」は可能か	岡本 裕一郎	47	1988	S63
418	国家儀礼と地方儀礼 : 琉球王府の王城作物儀礼をめぐって	安達 義弘	47	1988	S63
419	トマス倫理学におけるペルソナと自然本性 : voluntarium 概念の一考察	稲垣 良典	48	1989	H1
420	法称著「プラマーナ・ヴィニシュチャヤ」第1章 現量(知覚)論の和訳(4)	戸崎 宏正	48	1989	H1
421	現代日本の価値意識と政治意識 : 1985年SSM[Social Stratification and Social Mobility]調査の分析を中心にして	友枝 敏雄	48	1989	H1
422	転回試論	細川 亮一	48	1989	H1
423	Trace Autosshaping in Pigeons: Acquisition and Maintenance at Short Trace Intervals	Kito Tsuneo	48	1989	H1
424	御言葉を聞く者の神学 : カール・ラーナーにおける神学と哲学	片山 寛	48	1989	H1
425	ダルマキールティの聖典観 : 「プラマーナ・ヴァールティカ」第1章および自註の和訳(3)	大前 太	48	1989	H1
426	「莊子」養生主篇をめぐって	佐藤 明	48	1989	H1
427	社会的劣性と「民衆イスラーム」 : エジプトの聖者崇拜をめぐって	田中 哲也	48	1989	H1

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
428	メーヌ・ド・ピランの習慣論について：メーヌ・ド・ピランの哲学における「習慣論」に意味に即して	浅田 淳一	48	1989	H1
429	自動的反応形成における連合要因	木藤 恒夫	49	1990	H2
430	中世後期における靈魂論の崩壊と認識理論の変容	稲垣 良典	49	1990	H2
431	高度産業化と生活システムの自律化運動：ポストモダンの基礎理論	徳永 勇	49	1990	H2
432	遠藤隆吉 覚書	町田 三郎	49	1990	H2
433	ダルマキールティの聖典観：『プラマーナ・ヴァールティカ』第1章および自註の和訳(4)	大前 太	49	1990	H2
434	法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』：第1章 現量(知覚)論の和訳(5)	戸崎 宏正	49	1990	H2
435	鎌倉時代絵所給師研究史料(稿)：附、似絵の絵師研究史料(稿)	平田 寛	49	1990	H2
436	生月のかくれキリシタン研究	坂井 信生	49	1990	H2
437	感覚知の意味と根底：アウグスティヌスの存在探究に定位して	谷 隆一郎	49	1990	H2
438	首善書院の光と陰	柴田 篤	49	1990	H2
439	前期ニヤヤ学派の知覚理論：到達作用説の展開	赤松 明彦	49	1990	H2
440	フッサールとハイデガー	細川 亮一	49	1990	H2
441	他者と異文化：フッサール間主観性の現象学の一側面	浜渦 辰二	49	1990	H2
442	『賈誼新書』の教育思想(上)	佐藤 明	49	1990	H2
443	幸福論としてのメーヌ・ド・ピラン哲学：後期メーヌ・ド・ピラン思想の再検討	浅田 淳一	49	1990	H2
444	友元と愛遠：筑前お抱え絵師の百年	小林 法子	49	1990	H2
445	法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章 現量(知覚)論の和訳(7)	戸崎 宏正	50	1991	H3
446	超越論哲学と自己の問題	山崎 庸佑	50	1991	H3
447	社会変動分析の方法論的基礎	友枝 敏雄	50	1991	H3
448	鎌倉時代絵師研究史料(稿)	平田 寛	50	1991	H3
449	神話から歴史へ	竹沢 尚一郎	50	1991	H3
450	陰陽の霊としての鬼神：朱子鬼神魂魄論への序章	柴田 篤	50	1991	H3
451	反応時間に及ぼす補償型トラッキング作業の影響	松永 勝也、志堂寺 和則	50	1991	H3
452	ダルマキールティの聖典観：『プラマーナ・ヴァールティカ』第1章および自註の和訳(7)	大前 太	50	1991	H3
453	意味・真理・場所	細川 亮一	50	1991	H3
454	他者と言語：フッサール間主観性の現象学の問題圏にて	浜渦 辰二	50	1991	H3
455	ルソーに於ける感情の倫理学：自然的感情と意志の關係に則して	浅田 淳一	50	1991	H3
456	『賈誼新書』の教育思想(下)	佐藤 明	50	1991	H3
457	福祉意識の構造：福祉意識類型とその規定要因の分析	稲月 正	50	1991	H3
458	人格の形而上学試論	稲垣 良典	51	1992	H4
459	法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章 現量(知覚)論の和訳(8)	戸崎 宏正	51	1992	H4
460	感情と意志との關係に於ける認識の問題：メーヌ・ド・ピランの「信」の理論に即して	浅田 淳一	51	1992	H4
461	観念論論駁	山崎 庸佑	51	1992	H4
462	社会学におけるマイクロ-マクロリンク：閾値モデルを中心として	平田 暢	51	1992	H4
463	身体平衡に及ぼす視覚情報：刺激提示方向と奥行き知覚の効果	北村 文昭、松永 勝也、金坂 弥起、柳田 多聞	51	1992	H4
464	東京大学『古典講習科』の人々	町田 三郎	51	1992	H4
465	貴神画人研究史料(稿)	平田 寛	51	1992	H4
466	アウグスティヌスにおける悪の問題：「自己・人間の成立」の機微をめぐって	谷 隆一郎	51	1992	H4

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
467	『天主実義』の成立	柴田 篤	51	1992	H4
468	道徳性を超えた精神:ヘーゲル「キリスト教の精神とその運命」におけるカント批判の意義	末吉 康幸	51	1992	H4
469	法称著「プラマーナ・ヴィニシュチャヤ」: 第1章現量(知覚)論の和訳(9)	戸崎 宏正	52	1993	H5
470	改稿・死と自己	山崎 庸佑	52	1993	H5
471	ヒンドゥー世界の言説の枠組み: 幸福の観念を視座として	赤松 明彦	52	1993	H5
472	社会変動分析の理論的課題: 社会変動分析のための準備ノート	友枝 敏雄	52	1993	H5
473	ピド・ポスチュログラフの微視的基礎データ: 本装置の最適な閾値の決定	北村 文昭、松永 勝也	52	1993	H5
474	遠藤隆吉「漢文日記」について(上): 『過眼則録』第三十八冊	町田 三郎	52	1993	H5
475	絵仏師の時代	平田 寛	52	1993	H5
476	信の構造: アウグスティヌス「三位一体論」第13巻を中心として	谷 隆一郎	52	1993	H5
477	天主教と朱子学: 「天主実義」第2篇を中心として	柴田 篤	52	1993	H5
478	「存在と時間」から「ソピステス」へ	細川 亮一	52	1993	H5
479	承認論の根底に存する問題: 「精神現象学」自己意識章における承認論の研究(1)	末吉 康幸	52	1993	H5
480	文献からみる江戸時代における「荘子」研究	連 清吉	52	1993	H5
481	事実性からアリストテレスへ: ハイデガー「アリストテレス草稿」(1922年)に即して	渡部 明	52	1993	H5
482	宮曼荼羅の成立	行徳 真一郎	52	1993	H5
483	バルトリハリにおけるabhyudayaとnirahvaya: 文法学は何のために学ばれるのか	赤松 明彦	53	1994	H6
484	他なる内面性と無	山崎 庸佑	53	1994	H6
485	ハイデガーとプラトン: 2つの「洞窟の比喩」解釈から	渡部 明	53	1994	H6
486	遠藤隆吉「漢文日記」について(下): 『過眼則録』第三十九冊・第四十冊	町田 三郎	53	1994	H6
487	視覚的環境との関わり方が身体平衡に及ぼす影響: 自己運動知覚と眼球の飛越運動に関する2つの実験	北村 文昭	53	1994	H6
488	存在論と超越論哲学: 「一般」に定位した「純粹理性批判」への接近	細川 亮一	53	1994	H6
489	知覚と思惟: 「能動理性」の生成	中畑 正志	53	1994	H6
490	亀井昭陽の「荘子瑣説」について	連 清吉	53	1994	H6
491	コミュニケーションと道徳的秩序: デュルケム、ミード、ハーバーマス	山下 祐介	53	1994	H6
492	自己の存在: 私が《ある》とは、どういう《ある》か	山崎 庸佑	54	1995	H7
493	『デ・アニマ』から『存在と時間』	細川 亮一	54	1995	H7
494	「天主実義」の研究(一): 序説と首篇現代語訳	柴田 篤	54	1995	H7
495	初期ハイデガー哲学における存在論の生成	渡部 明	54	1995	H7
496	滝上寺九品来迎図試論: 風景と説話の関係	緒方 知美	54	1995	H7
497	虚無僧の天蓋	花田 伸久	55	1996	H8
498	言葉は永遠なものか創り出されたものか: バルトリハリの場合(2)	赤松 明彦	55	1996	H8
499	構成要素の意味はいかに放棄されるか: サンスクリット文法学における統合形の意味論的アスペクトに関して(1)	宮本 均	55	1996	H8
500	世界と経験: カントの超越論的哲学の帰趨	円谷 裕二	55	1996	H8
501	『天主実義』の研究(二): 第二篇現代語訳	柴田 篤	55	1996	H8
502	「春秋学者」としての柳宗元(一)	横畑 茂明	55	1996	H8
503	Phenomenology and Metaphysics in Being and Time	Hosokawa Ryoichi	56	1997	H9
504	『天主実義』の研究(三): 第三篇現代語訳	柴田 篤	56	1997	H9
505	虚無僧の天蓋(二)	花田 伸久	56	1997	H9

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
506	A Note on Concept of Happiness as Appeared in the Texts of Classical India	Akamatsu Akihiko	56	1997	H9
507	構成要素の意味放棄と不放棄の境界：サンスクリット文法学における統合形の意味論的アスペクトに関して(2)	宮本 均	56	1997	H9
508	江戸漢学における『韓非子』の意義：諸注釈書に現れた『韓非子』観を通して	横山 裕	56	1997	H9
509	ドゥルーズにおける批判哲学：カントからニーチェへ	大崎 晴美	56	1997	H9
510	現代社会と『韓非子』：教育・新聞・ビジネスに現れる『韓非子』を見る	横山 裕	57	1998	H10
511	自己論へのアクセス	山崎 庸佑	57	1998	H10
512	不断の創造と意志	谷 隆一郎	57	1998	H10
513	『天主実義』の研究(四)：第四篇現代語訳	柴田 篤	57	1998	H10
514	原現象学と現象学体系	細川 亮一	57	1998	H10
515	自然の存在論的偶然性：カントの『判断力批判』における自然理解を手がかりに	円谷 裕二	57	1998	H10
516	ディアレクティケーの理論と実践：アリストテレス『トピカ』第八巻におけるエンドクサと真理	納富 信留	57	1998	H10
517	ドゥルーズにおける実践哲学：無神論者としてのスピノザ	大崎 晴美	57	1998	H10
518	導入部としての現象学	細川 亮一	58	1999	H11
519	自己了解としての風土：和辻風土論の批判的展開	納富 信留	58	1999	H11
520	教養に不可欠な何かとしての自己知：アベラール倫理思想を手がかりに	永嶋 哲也	58	1999	H11
521	三輪執斎思想初探：陽明学との関連を中心に	鄭 址郁	58	1999	H11
522	『千のプラトーン』における内在平面：ドゥルーズ『スピノザ：実践哲学』との関係から	大崎 晴美	58	1999	H11
523	『天主実義』の研究(五)：第五篇現代語訳	柴田 篤	59	2000	H12
524	三枚重ねの透かし織り：ヘーゲル現象学の理念	細川 亮一	59	2000	H12
525	哲学は何でないかについての予備考察：プラトン『恋する者たち』の哲学的可能性	納富 信留	59	2000	H12
526	崎門学派の陽明学観：佐藤直方を中心に	鄭 址郁	59	2000	H12
527	「カリアス書簡」における完全性美学の意義：シラーによるカント及び完全性美学克服の構図	中本 幹生	59	2000	H12
528	反省的判断力と超越論的哲学	円谷 裕二	60	2001	H13
529	道化師ツァラトゥストラ	細川 亮一	60	2001	H13
530	「ある」と「ない」の対の困難：プラトン『ソフィスト』篇中央部への接近	納富 信留	60	2001	H13
531	哲学における“如何に問うか”の重要性：アベラルドゥスにおける知と実在の乖離という問題	永嶋 哲也	60	2001	H13
532	「自然の権利」はどういう権利か？	中本 幹生	60	2001	H13
533	ツァラトゥストラの動物たち	細川 亮一	61	2002	H14
534	「白鹿洞書院揭示」と李退溪	柴田 篤	61	2002	H14
535	存在の比喩的解釈	菊地 恵善	61	2002	H14
536	意志の自由、道徳、責任をめぐる小論：カントとシジウィックの対比	奥野 満里子	61	2002	H14
537	『道徳の系譜』の理念としての超人思想	新名 隆志	61	2002	H14
538	芸術への問い：技術・遊び・芸術	菊地 恵善	62	2003	H15
539	永遠回帰の世界	細川 亮一	62	2003	H15
540	『発心集』における<生>のゆくえ	宮島 磨	62	2003	H15
541	インド仏教正量部の終末観	岡野 潔	62	2003	H15
542	「脳死」再考：脳機能人工代行の可能性から	宮本 均	62	2003	H15
543	菊竹淳一教授退官記念特輯		63	2004	H16
544	無化と超越：ニヒリズムの超克とその動的なかたち	谷 隆一郎	63	2004	H16

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
545	『大いなる帰滅の物語』(Mahasamvartanikatha) : 第2章4節~第4章1節と並行資料の翻訳研究	岡野 潔	63	2004	H16
546	動物は「私」と言うことができない	菊地 惠善	63	2004	H16
547	『ツアラトウストラ』における永遠性	細川 亮一	63	2004	H16
548	曇鸞の浄土理解をめぐる : 「自利」と「利他」という観点から	宮島 磨	63	2004	H16
549	『天主実義』の出版	柴田 篤	63	2004	H16
550	『莊子』齊物論篇における「彼」「是」の問題について	檜崎 洋一郎	63	2004	H16
551	ニーチェの力への意志の形而上学	菊地 惠善	64	2005	H17
552	『大いなる帰滅の物語』(Mahasamvartanikatha) : 第5章2節~4節と並行資料の翻訳研究	岡野 潔	64	2005	H17
553	道化師ツアラトウストラの黙示録	細川 亮一	64	2005	H17
554	『三宝絵』における「仏宝」巻の位置 : 釈尊の「前世行」の意義をめぐる	宮島 磨	64	2005	H17
555	Th・W・アドルノにおける「幸福の約束」	東口 豊	64	2005	H17
556	超越論的哲学と形而上学	細川 亮一	65	2006	H18
557	正量部の仏伝の伝承研究 : 『大いなる帰滅の物語』第1章1節~3節の翻訳と研究	岡野 潔	65	2006	H18
558	『畸人十篇』研究序説	柴田 篤	65	2006	H18
559	Jayantaの唯識批判 : Nyayamanjari「認識一元論批判」和訳	片岡 啓	65	2006	H18
560	親鸞における「真」と「偽」 : 「化身土巻」における「外道」批判の意味	宮島 磨	65	2006	H18
561	ペトルルカ『凱旋』の図像をめぐる	京谷 啓徳	65	2006	H18
562	純粹実践理性の根本法則は要請である	細川 亮一	66	2007	H19
563	『大いなる帰滅の物語』第2章1節~3節に見る世界形成の正量部伝承	岡野 潔	66	2007	H19
564	正しい宗教とは何か : Bhatta Jayanta作Nyayamañjari「聖典権威章」和訳	片岡 啓	66	2007	H19
565	「自利」と「利他」を架橋するもの : 世親から親鸞へ	宮島 磨	66	2007	H19
566	メルロ=ポンティの現象学における身体の構造と機能について	樋渡 河	66	2007	H19
567	要素命題と論理空間 : 移行期ワイトゲンシュタインの思想について	林 大悟	66	2007	H19
568	『存在と時間』第三編「時間と存在」	細川 亮一	67	2008	H20
569	やがて世界が終わる、世界が生まれ変わる : 『大いなる帰滅の物語』第4章2節~4節読解	岡野 潔	67	2008	H20
570	大乘菩薩道としての浄土願生 : 「難易二道」をめぐる : 龍樹から親鸞へ	宮島 磨	67	2008	H20
571	ジャヤンタによる論理学の位置付け : Nyāyamañjarī「序説」和訳	片岡 啓	67	2008	H20
572	謝荘の『春秋左氏経傳圖』	南澤 良彦	67	2008	H20
573	シッダセーナ・ディヴァーカラ著『聖賢の論理』和訳研究(1)	原田 泰教	67	2008	H20
574	PAPの限界と因果的決定論	吉原 雅子	67	2008	H20
575	メルロ=ポンティの真理論における表現の問題	円谷 裕二	68	2009	H21
576	生きものが再びいなくなる時代 : 『大いなる帰滅の物語』第5章1節にみる正量部伝承	岡野 潔	68	2009	H21
577	神を否定する方法 : Nyayamañjari「主宰神論証」前主張部の読解	片岡 啓	68	2009	H21
578	アリストテレス『形而上学』Z巻第十三章における「普遍」の問題	岩田 圭一	68	2009	H21
579	コペルニクス的転回 : 自ら作りうるもののみを洞察する	細川 亮一	68	2009	H21
580	道徳法則の妥当性と個別主義	吉原 雅子	68	2009	H21
581	親鸞における〈行〉主体の転換構造 : 龍樹・世親・曇鸞を媒介に	宮島 磨	68	2009	H21
582	『畸人十篇』の研究 : 第一篇・第二篇訳注	柴田 篤	68	2009	H21
583	Th・W・アドルノの音楽論における「不協和音」の意味 : 『新音楽の哲学』を中心に	東口 豊	68	2009	H21

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
584	荘子とニーチェ	菊地 恵善	69	2010	H22
585	柔らかな決定論はどのようにして正当化できるか	吉原 雅子	69	2010	H22
586	ジャヤンタの主宰神論証: Nyāyamañjarī「主宰神論証」定説部の和訳	片岡 啓	69	2010	H22
587	類とエイドス: アリストテレスの実体論におけるアイデア論批判の意義	岩田 圭一	69	2010	H22
588	矛盾と脱走の絵画: プルトンとアインシュタインのキュビズム受容	石井 祐子	69	2010	H22
589	最高善の促進は要請である	細川 亮一	69	2010	H22
590	『閑居友』における「結縁」の諸相: 「有縁」から「結縁」へ	宮島 磨	69	2010	H22
591	釈尊が前世で犯した殺人: 大乘方便経によるその解釈	岡野 潔	69	2010	H22
592	楠本正継博士の朱子学研究	柴田 篤	69	2010	H22
593	南朝齊梁時代の明堂	南澤 良彦	69	2010	H22
594	昭和一八年の日本旅行: ベトナム人画家ルオン・スアン・ニーの日記から	後小路 雅弘	69	2010	H22
595	Th・W・アドルノの音楽言語論における「沈黙」	東口 豊	69	2010	H22
596	メルロ=ポンティの言語論: 知覚の現象学に即して	円谷 裕二	70	2011	H23
597	「大いなる帰滅の物語」最終章 — 第6章1節-4節の翻訳研究 —	岡野 潔	70	2011	H23
598	すべての価値の価値転換というニーチェの試みについて	菊地 恵善	70	2011	H23
599	ダルマキールティによる『集量論』19の解釈: 『量評釈』Ⅲ320-352の分析	片岡 啓	70	2011	H23
600	アリストテレス『形而上学』: ㊦巻第一-三章における能動的能力の説明	岩田 圭一	70	2011	H23
601	普遍的法則になることを意志しうる	細川 亮一	70	2011	H23
602	北魏と隋の明堂	南澤 良彦	70	2011	H23
603	蟹養斎の講学: 九州大学碩水文庫を主たる資料に仰いで	白井 順	70	2011	H23
604	死と時間性: ハイデッガーの著作『存在と時間』の批判的考察	菊地 恵善	71	2012	H24
605	世界の成り立ちをめぐる外教との論争: 『大いなる帰滅の物語』第一章第四節読解	岡野 潔	71	2012	H24
606	質料の階層と「可能態」の概念: アリストテレス『形而上学』H巻第四一五章および㊦巻第七章の解釈	岩田 圭一	71	2012	H24
607	アポーハ論批判: Nyayamanjari「クマーリラのアポーハ批判」章和訳	片岡 啓	71	2012	H24
608	カントとヒュームと現象学	細川 亮一	71	2012	H24
609	法然における「法」と「機」: 「選択」から「凡愚」の自覚へ	宮島 磨	71	2012	H24
610	『畸人十篇』の研究(二): 第三篇・第四篇訳注稿	柴田 篤	71	2012	H24
611	裴頠の「一屋之論」と南朝北朝の明堂	南澤 良彦	71	2012	H24
612	言語のダイナミズム: ウィトゲンシュタインからメルロ=ポンティへ	円谷 裕二	72	2013	H25
613	『ニヤーヤ・マンジャリー』: 「仏教のアポーハ論」章和訳	片岡 啓	72	2013	H25
614	魯班研究序説: 中国古代中世における技術思想の伝統	南澤 良彦	72	2013	H25
615	Sarvaraksita作Mahāsamvartanīkathā 校定テキスト(1)	岡野 潔	72	2013	H25
616	日本軍政と東南アジアの美術	後小路 雅弘	72	2013	H25
617	意味と歴史: メルロ=ポンティの歴史哲学	円谷 裕二	73	2014	H26
618	Sarvaraksita作Mahāsamvartanīkathā校定テキスト(2)	岡野 潔	73	2014	H26
619	世界経験をめぐる有限性	廣田 智子	73	2014	H26
620	『ジャワ新聞』の美術関連記事: 蘭印における日本軍政と「宣撫工作」	後小路 雅弘	73	2014	H26
621	ジャヤンタの普遍論: Nyāyamañjarī和訳	片岡 啓	73	2014	H26
622	『天学初函大意書』における『畸人十篇』	柴田 篤	74	2015	H27

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
623	Sur la relation entre le monde vécu et le sujet corporel dans la philosophie de Merleau-Ponty	円谷 裕二	74	2015	H27
624	Sarvarakṣita作Mahāsaṃvartanikathā校定テキスト(3)	岡野 潔	74	2015	H27
625	魏晋南北朝時代の将作大匠と儒教：中国中世の科学技術と官僚制	南澤 良彦	74	2015	H27
626	仏教の普遍批判：Nyāyamañjarī和訳	片岡 啓	74	2015	H27
627	藝術思想における黙示録的性格：ハイデッガーにおけるヘーゲルの所謂「藝術終焉論」批判をめぐって	東口 豊	75	2016	H28
628	„Faktum der Vernunft“ als Überwindung des Dualismus in Kants Ethik	Tsuburaya Yuji	75	2016	H28
629	世界史を説く未知の正量部聖典からの引用文テキスト(1)：『有為無為決択』第8章における引用文の蔵文テキストの校訂・和訳	岡野 潔	75	2016	H28
630	大西祝における人倫の形而上学	脇 崇晴	75	2016	H28
631	スチャリタミシュラのアポー八論理解：Kāśikā ad Ślokaṅvārttika apoha v. 1 前主張の和訳	片岡 啓	75	2016	H28
632	哲学と政治：ハンナ・アーレントの行為論に即して	円谷 裕二	76	2017	H29
633	世界史を説く未知の正量部聖典からの引用文テキスト(2)：『有為無為決択』第8章における引用文の蔵文テキストの校訂・和訳	岡野 潔	76	2017	H29
634	ゴンザーガ家と聖血の聖遺物	京谷 啓徳	76	2017	H29
635	スチャリタミシュラのアポー八論批判：Kāśikā ad Ślokaṅvārttika apoha v. 1 後主張の和訳	片岡 啓	76	2017	H29
636	美学と政治：J. ランシエールと「感性的なものの分割＝共有partage	山下 通	76	2017	H29
637	カントの超越論的哲学からアーレント政治哲学へ：根源悪と人権概念をめぐって	円谷 裕二	77	2018	H30
638	ジャヤンタの錯誤論：Nyāyamañjarī和訳	片岡 啓	77	2018	H30
639	鈴木大拙の『日本的靈性』についての考察(上)	横田 理博	77	2018	H30
640	ハリバット・ジャータカマーラー研究(一)：第一～第五話和訳	岡野 潔	77	2018	H30
641	原理なき、目的なき「経過」としての自然と藝術：Th. W. アドルノの美学思想の今日的意義	東口 豊	77	2018	H30
642	鈴木大拙の『日本的靈性』についての考察(下)	横田 理博	78	2019	H31
643	Knowledge by Acquaintance: A Note on Plato's Meno 71b3-6	Sakai Kentaro	78	2019	H31
644	唯識の錯誤説に対するJayantaの批判：Nyāyamañjarī「認識一元論批判」和訳(続)	片岡 啓	78	2019	H31
645	ハリバット・ジャータカマーラー研究(二)：第六～第八、第一一話和訳	岡野 潔	78	2019	H31
646	シュルレアリスムと展覧会カタログ(1)	石井 祐子	78	2019	H31